シンガポール英語と国際英語

Dr Alexander Ressos, TEP
Attorney-at-Law (Switzerland and Germany),
Solicitor (England & Wales and Hong Kong)
Of Counsel, KGP Legal LLC
alexander.ressos@kgplegal.com.sg
www.ressos.com.sg

標準シンガポール英語

シンガポールの英語は、独自の特徴を持つ英語の一変種です。標準シンガポール英語は英国式の綴りと文法に従っており、シンガポールの契約書は*colour*、*realise*、*programme*と表記します。発音は南部イギリス英語を手本とし、おおむね非R音性ですが、リズムはイギリス英語の強勢拍リズムとは異なり、音節拍になる傾向があります。[1] 国立教育学院（National Institute of Education）による2003年の研究は、標準的なシンガポール式発音が「標準化される寸前にある」と結論付けました。[2] 書き言葉としての標準シンガポール英語は、ロンドンやシドニーの英語とほとんど区別がつきません。法と金融にとって重要なのは、まさにこの点です。

言語学者は、シンガポールの英語を、ブラジ・カチュル（Braj Kachru）が提唱した三つの円のうち第二の円に属する英語の新変種と位置付けています。植民地支配とともに到来し、国家、学校、専門職の言語となった「外円」の言語です。[3] シンガポールは、外円の変種が内円に最も近づいた事例としてしばしば引き合いに出されます。英語を第一言語とし、生活のあらゆる領域でそれを用いる話者の割合が増え続けているからです。

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.

シングリッシュ

標準シンガポール英語と並んで、シンガポールの口語英語であるシングリッシュがあります。言語学者はこれをシンガポール口語英語（Singapore Colloquial English）と呼んでいます。その文法は主題優勢型で、動詞*be*をしばしば省略し、反復を用い、*lah*、*ah*、*what*などの談話小辞に頼ります。語彙はイギリス英語を基礎としており、主にマレー語と福建語からの借用語があり、北京語の影響も強まっています。[4] *kiasu*（損をすることを恐れる）、*shiok*（おいしい、素晴らしい）、*kaypoh*（おせっかいな人）といった言葉は、あらゆるコミュニティのシンガポール人に通じます。

研究者は、二つの変種の関係を二通りに説明してきました。ジョン・プラット（John Platt）は、一方の端に標準英語、もう一方の端に最も崩れたシングリッシュを置く連続体上の点としてそれらを扱いました。1990年以降、アンシア・フレイザー・グプタ（Anthea Fraser Gupta）は、それらをダイグロシアの組として説明しました。話者が、改まった目的には高位の変種を、くだけた目的には低位の変種を意識的に選び分けるというものです。[5] 金融センターの実情に合うのは、後者の説明です。給湯室ではシングリッシュを使う同じ銀行員が、フランクフルトの顧客にプレゼンテーションをするときや与信稟議書を作成するときには標準英語に切り替えるのです。

正しい英語を話そう運動

政府は長らく、シングリッシュを英語の経済的価値に対する脅威とみなしてきました。ゴー・チョクトン（Goh Chok Tong）首相は1999年の独立記念日集会演説で、「他者に理解されない崩れた英語を話せば、私たちは重要な競争上の優位を失うことになる」と警告しました。彼は2000年4月29日、「上手に話そう。理解されよう。」というスローガンの下、正しい英語を話そう運動（Speak Good English Movement）を開始しました。[6] ゴーは1999年の集会演説ですでに、主人公が崩れたシングリッシュを話す人気

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.

シットコム*Phua Chu Kang Pte Ltd*を名指ししており、その後この番組はシングリッシュの使用を減らしました。[7] リー・クアンユー（Lee Kuan Yew）は1999年、この主張を率直に述べています。「シングリッシュはハンディキャップであり、シンガポール人に背負わせることを望むべきではない。」[8]

放送政策も同じ方針をとりました。現在の情報通信メディア開発庁（Infocomm Media Development Authority）の前身であるメディア開発庁（Media Development Authority）の地上波無料テレビ番組基準（Free-to-air Television Programme Code）は、インタビュー対象者が他の形態の英語を話さない場合のインタビューに限ってシングリッシュを認めていました。[9] 毎年新しいスローガンとともに更新される正しい英語を話そう運動は、文法的に正しく、どこでも理解される英語を話すようシンガポール人に促すことを目的としています。そのメッセージは常に経済的なものでした。世界にサービスを売る金融センターには、世界が理解できる英語を話す労働力が必要だというのです。

ハンディキャップから文化的標識へ

2000年以降、人々の態度は変化してきました。2013年と2018年に実施された調査では、回答者の約半数がシングリッシュを上手に、または非常に上手に話せると答え、若い回答者ほど高い能力を報告していました。政策研究所（Institute of Policy Studies）による2018年の研究では、シンガポール人の8%がシングリッシュを自らの主要言語とし、英語を挙げたのは約3分の1でした。[10] 政治指導者も語調を和らげています。2015年、リー・シェンロン（Lee Hsien Loong）首相は、一部をシングリッシュで語りながら、シンガポールの国民的アイデンティティに対する自信の高まりを歓迎しました。2019年には、正しい英語を話そう運動の委員長ジェイソン・リョウ（Jason Leow）が、シングリッシュを「多くのシンガポール人にとっての文化的標識」と表現しました。[11]

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.

オックスフォード英語辞典（Oxford English Dictionary）も同じ道をたどっています。2000年3月に*lah*と*sinseh*が、2007年に*kiasu*が収録されました。2016年には*ang moh*、*shiok*、*sabo*を含む19のシンガポールの語がまとめて続きました。2026年にはさらに11語が追加され、その中には*BTO*、*wayang*、*kaypoh*が含まれています。[12] イギリス英語を代表する辞書がシングリッシュの語を認めたことは、シンガポール英語が、オーストラリア、インド、南アフリカの英語と並んで、英語の公認された国別変種の一つとなったことを示しています。

商業上の資産としての通じやすさ

金融センターにとって、シングリッシュをめぐる議論には明確な実務上の答えがあります。インフラとしての英語の価値は、国外の顧客、取引相手、規制当局、裁判所にとっての通じやすさにかかっています。標準シンガポール英語は、この基準を完全に満たしています。シンガポールの判決、MASの市中協議文書、シンガポールの法律事務所の意見書は標準的な国際英語として読めるものであり、ロンドンやニューヨークの読者が説明なしに依拠できます。これに対し、シングリッシュは親密さとアイデンティティの言語であり、シンガポール人同士の間で使われます。専門職が二つの言語使用域を切り替えられる限り、シングリッシュの存在は金融センターにとって何のコストにもなりません。実際、その大多数は当然のようにそうしています。

より深刻なリスクは別のところにあります。世界言語で仕事をする金融センターは、同じことをする他のすべての金融センターと競合します。ロンドン、ニューヨーク、香港、ドバイ、そしてインドや湾岸諸国の国際金融センターは、いずれも英語による法、規制、紛争解決を提供しています。英語はシンガポールに世界市場へのアクセスを与えますが、主要な競合相手に対する独自の優位を与えるものではありません。独自の優位は、英語と他の何かとの組合せから生まれなければなりません。第二のアジア

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.

言語、健全性に対する評判、信頼できる国家、そして地域への深い理解です。第J部の以降の章と、第K部の競争に関する章で、この点に立ち返ります。

注

1. Wikipedia, “Singapore English”（2026年11月最終閲覧）：標準シンガポール英語は“retains British spelling and grammar”。“Singaporean accents can be said to be largely non-rhotic”。シンガポール英語は、強勢拍のイギリス英語とは異なり、音節拍になる傾向があります。 ↩
2. Wikipedia, “Singapore English”（2026年11月最終閲覧）、2003年の国立教育学院の研究について。 ↩
3. Braj B. Kachru, “Standards, codification and sociolinguistic realism: the English language in the outer circle”, in Randolph Quirk and H.G. Widdowson (eds), *English in the World*, Cambridge, Cambridge University Press, 1985, 11〜30頁。 ↩
4. Wikipedia, “Singlish”（2026年11月最終閲覧）。その発音、主題優勢型の文法、*be*の省略、反復、*ah*、*lah*、*what*などの談話小辞、そして主にマレー語と福建語からの借用語を伴うイギリス英語に基づく語彙について。 ↩
5. Wikipedia, “Singlish”（2026年11月最終閲覧）：プラット（1975〜1989年）はシンガポール英語とシングリッシュを“creole continuum”として扱いました。グプタ（1990年以降）はそれらをダイグロシアの組として扱い、標準シンガポール英語を高位、シンガポール口語英語を低位の言語使用域としました。 ↩
6. Wikipedia, “Speak Good English Movement”（2026年11月最終閲覧）：2000年4月29日にゴー・チョクトン首相が開始し、委員会はデイヴィッド・ウォン（David Wong）が率いました。1999年の独立記念日集会演説におけるゴーの発言“if we speak a corrupted form of English

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.

that is not understood by others, we will lose a key competitive advantage”。スローガンは“Speak Well, Be Understood”。 ↩

7. Wikipedia, “Singlish”（2026年11月最終閲覧）：1999年、ゴー・チョクトンは*Phua Chu Kang Pte Ltd*とそのシングリッシュの使用を名指しし、その後この番組はシングリッシュを減らしました。 ↩

8. Wikipedia, “Language policy in Singapore”（2026年11月最終閲覧）。*The Sunday Times*, 1999年8月15日に関するWee (2010)を引用：“Singlish is a handicap we must not wish on Singaporeans.”。 ↩

9. Wikipedia, “Language policy in Singapore”（2026年11月最終閲覧）。メディア開発庁のFree-to-air Television Programme Codeを引用：シングリッシュは“interviews, where the interviewee speaks only Singlish”に限って認められています。 ↩

10. Wikipedia, “Languages of Singapore”（2026年11月最終閲覧）：2018年の政策研究所の研究では、8%がシングリッシュを、約3分の1が英語を自らの主要言語としていました。2013年と2018年の調査では、回答者の約半数がシングリッシュを上手に、または非常に上手に話せると答えていました。 ↩

11. Wikipedia, “Singlish”（2026年11月最終閲覧）、2015年のリー・シェンロンの発言について。Wikipedia, “Speak Good English Movement”（2026年11月最終閲覧）：同運動の委員長ジェイソン・リョウは、2019年6月14日の2019年キャンペーン開始式で、シングリッシュを“cultural marker for many Singaporeans”と呼びました。 ↩

12. Wikipedia, “Singlish”（2026年11月最終閲覧）：*lah*と*sinseh*は2000年3月からOEDに収録され、*kiasu*は2007年、2016年には*ang moh*、*shiok*、*sabo*を含む19語、2026年には*BTO*、*wayang*、*kaypoh*を含む11語が収録されました。 ↩

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.

Disclaimer

This article is provided for general information only. It is based on publicly available sources as at its date of publication. These sources have not been independently verified against licences, regulatory registers or the records of the entities concerned. It is not legal, tax, financial or investment advice. Nor is it a recommendation to invest in, transact with or use the services of any entity mentioned. Law and regulation change frequently, so the content may be incomplete or outdated. To the fullest extent permitted by law, Dr Alexander Ressos and the publisher of SingaporeIQ exclude all liability for loss or damage arising from the use of or reliance on this article. Readers should obtain advice on their specific circumstances before acting or refraining from action.

Names and trademarks of the entities discussed belong to their owners and are used for identification only. Their mention implies no endorsement, affiliation or allegation of wrongdoing. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. Corrections and updates: contact@ressos.com.

© 2026 Dr Alexander Ressos. This article may be quoted with attribution to SingaporeIQ (SingaporeIQ.com). Reproduction in full and any commercial use require prior written consent. The Legal Terms at https://singaporeiq.com/legal-terms apply.

Author contact: Dr Alexander Ressos, TEP · contact@ressos.com